

本部門賞

おじいちゃん、ありがとう

しもよし もとこ
下吉 素子 さん

私は、ちょっと黄ばんだり、らくがきのある絵本や物語を数冊持っている。どれも私が小学生の頃に祖父がプレゼントしてくれたものだ。

ちょっと離れた所に住んでいた祖父はとても本好きな人だった。お盆やお正月に遊びに行くと、夏は縁側で、冬は堀ごたつで、昔話や民話を語り聞かせてくれた。笑ったり、ぞくっとしたり、それはとてもおもしろくて楽しい時間だった。そして、もっと楽しみだったのは、語り聞かせのあとに「はい」と言って渡してくれる本だった。新しい本の表紙はピカピカしていた。どんなお話かなとわくわくしながらページをめくった。読み終わると祖父に「読んで」とせがんだ。祖父はやさしく「はい、はい」を言って今度は読み聞かせをしてくれた。

祖父からもらった本たちは、これからもほっこりした思い出とともに私の側においておきたいなと思う。